

Sustainability of the SoftBank Group

ソフトバンクグループのサステナビリティ

「世界の人々から最も必要とされる企業グループ」を目指して。
ソフトバンクグループは、情報革命をリードする企業としての責任を果たしていきます。

- P. 8 サステナビリティメッセージ
- P. 9 サステナビリティの考え方
- P. 11 特集：サステナビリティ委員会
- P. 12 投資事業におけるESG対応の推進
サステナブルボンドを活用した環境・社会分野への投資促進
- P. 13 Pick up：環境・社会課題の解決に貢献する投資先

サステナビリティメッセージ



取締役 専務執行役員 CFO 兼 CISO 後藤 芳光

気候変動や人権問題など、サステナビリティに関する企業の責任はますます高まっています。ソフトバンクグループ(株)においても2020年度以降、社内基盤を構築し、サステナビリティに関する取り組みを着実に進めて参りましたが、その取り組みがさらに進んだ1年であったと感じています。

環境に関しては、2022年6月に当社グループの温室効果ガス排出量の削減目標とともにTCFD(気候関連財務情報開示タスクフォース)提言に沿った情報開示を行いました。ソフトバンクグループ(株)単体ではすでにカーボンニュートラルを達成しており、複数の主要子会社でも独自の目標を打ち出している中で、今後はグループ一丸となった取り組みを進めていきます。

社会に関しては、人権リスクの特定など人権への取り組みの強化を進めるとともに、より重要性が高まっている人的資本にも注力しています。投資事業の最大の資本はまさに「人」です。人材の質の継続的な向上が当社グループの成長を牽引すると考え、社員一人一人が能力を高めグローバルに活躍する人材となっていけるよう、今後も会社としてサポートしていきます。

ガバナンスに関しては、ソフトバンクグループ(株)の取締役会は、グローバルな企業経営者や一流の学識経験者を中心に、スキル面の多様性に富んだメンバーで構成されています。また、2021年6月に社外取締役比率が5割を超える形となり、取締役会における監督機能もさらに強化されました。

さらに、投資会社として重要な取り組みである、投資事業におけるESGの組み込みも推進しています。すでに当社グループの投資先の多くが、気候変動への対応、資源循環の推進、多様性や包摂性の確保、格差や差別の解消などに取り組んでいますが、今後も、投資基準にESGをいかに自然に組み込んでいくかが重要なテーマだと考えています。ESGの視点が十分でない企業は中長期的に成長が劣る可能性をはらんでおり、そのような企業への投資は、結果として当社グループの投資パフォーマンスにも影響しかねません。社会的要請に正面から取り組むことは重要です。投資基準に組み込む以上は、投資後も継続的なモニタリングを通じて投資先の状況を把握し、必要に応じてエンゲージメントも行っていきます。

当社グループのESGに対する取り組みは第三者評価機関からもすでに高く評価いただいておりますが、さらに本質的な取り組みを充実させていきたいと考えています。今後も、社会的要請も踏まえながら、継続的な改善を怠ることなく、より良き姿を志向してESGを推進していきます。

サステナビリティの考え方

サステナビリティビジョン

「考えるのは、300年後の人と地球」

情報革命で人々を幸せに。その言葉には、300年後の未来、何世代も先の人々まで幸せにしつつける、という私たちの決意が込められています。

人と地球が、いつまでも共存できる世界をつくっていくために。

私たちソフトバンクグループは、持続可能な社会の実現に向けて、情報革命をリードする企業としての責任を果たしていきます。

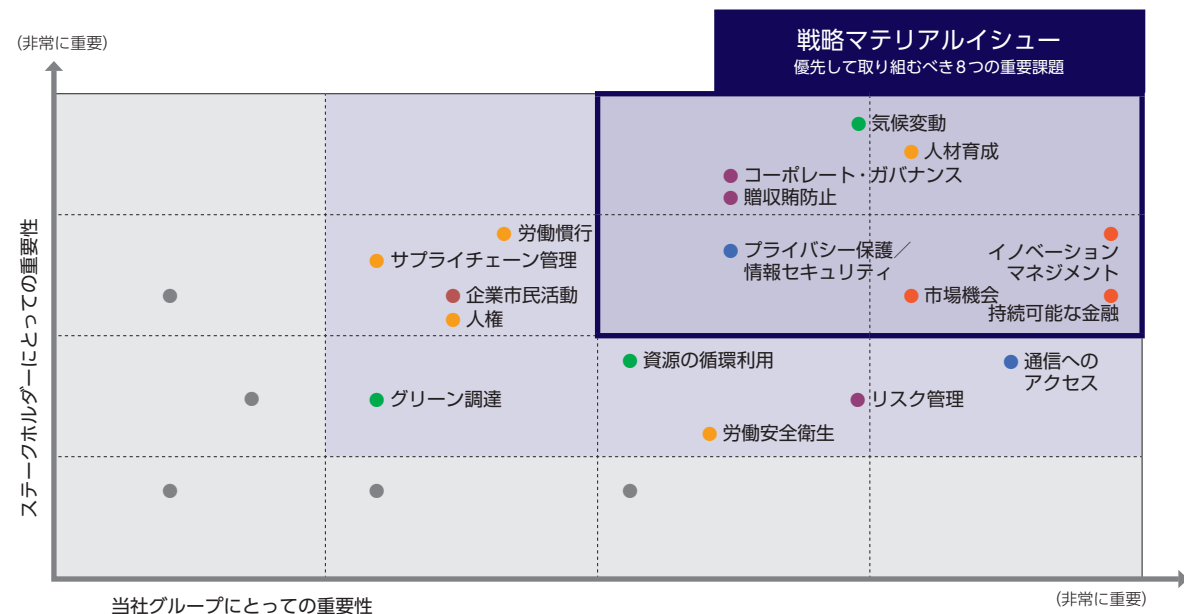
基本的な考え方

ソフトバンクグループ(株)は、当社グループがサステナビリティに関する活動を適切に推進するための指針として「ソフトバンクグループサステナビリティ基本方針」を定めています。本方針に基づき、グループ各社の事業特性や社会の要請に応じて重要課題(戦略マテリアルイシュー)を特定し、当社グループがサステナビリティへの取り組みを自律的に推進していくための6つの活動テーマを定めています。

サステナビリティ基本方針に基づく6つの活動テーマ

- 1 知恵と知識をつなぎ、
社会の成長とイノベーションを推進する
- 2 テクノロジーの進歩に伴う新たな課題に対応し、
未来への責任を果たす
- 3 すべての人が自分らしく挑戦できる環境をつくり、
次世代と事業の成長を図る
- 4 最先端テクノロジーを活用し、
エネルギー問題をはじめとした環境課題の解決に挑む
- 5 社会をリードする企業にふさわしい
透明性の高いガバナンスとコンプライアンスを実践する
- 6 グループの強みを活かし、世界中の人々とともに、
社会のさらなる幸せに貢献する

戦略マテリアルイシュー^{※1}



※1 色は左記の6つの活動テーマとの関連を示しています

重要課題(戦略マテリアルイシュー)の特定

ソフトバンクグループ(株)は、「ステークホルダーにとっての重要性」と「当社グループにとっての重要性」の2軸で取り組むべき課題を分類し、優先順位を付けることで、特に優先して取り組むべき8つの重要課題(戦略マテリアルイシュー)を特定しています。

Step1
課題の認識
課題を抽出

外部のガイドラインや有識者の意見などを参照し、当社グループの主要事業を取り巻く課題を抽出

Step2
重要性の分析

ステークホルダーと当社グループにとっての課題の重要性を分析

「ステークホルダーにとっての重要性」と「当社グループにとっての重要性」の2軸で重要性を分析

Step3
重要課題の特定

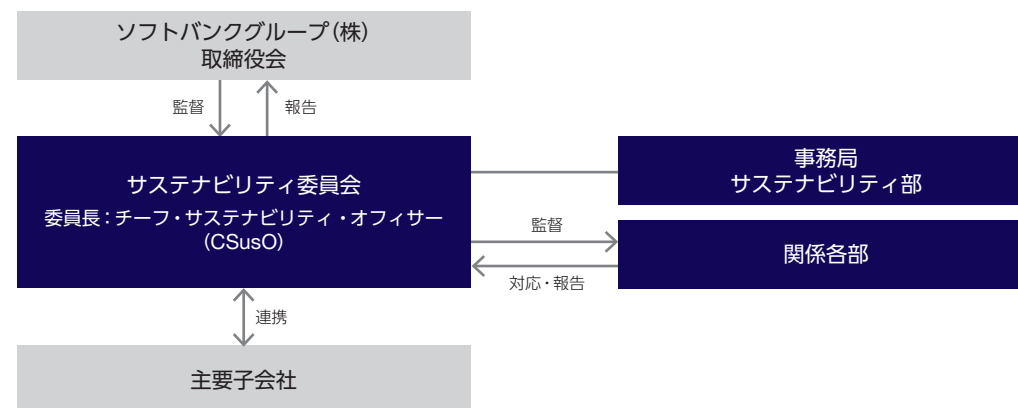
優先して取り組むべき重要課題を特定

当社グループが特に優先して取り組むべき重要課題(戦略マテリアルイシュー)を特定

サステナビリティガバナンス体制

ソフトバンクグループ(株)は、サステナビリティに関するガバナンス体制として、取締役会でチーフ・サステナビリティ・オフィサー(CSusO)を任命するとともに、サステナビリティ委員会を設置しています。同委員会は、CSusO(IR部長兼サステナビリティ部長)を委員長、取締役専務執行役員CFO兼CISO(財務統括兼管理統括)、常務執行役員(経理統括)、執行役員CLO兼GCO(法務統括)の3名を委員としており、当社グループを取り巻くESGの重要課題や推進方針についてステークホルダーからの要請を踏まえながら議論するとともに、その内容について取締役会に報告し、監督を受けています。

サステナビリティガバナンス体制図



SDGsへの取り組み



当社グループは「情報革命で人々を幸せに」という経営理念の下、世界の人々が幸せに豊かに暮らす社会の実現を目指しており、ソフトバンクグループサステナビリティ基本方針で定めた6つの活動テーマに基づき、グローバルに事業を展開するグループ各社と共に、SDGsの達成に向けて取り組んでいきます。

1 貧乏をなくす	2 気候変動に具体的な対策を	3 健全な働き場を育もう	4 質の高い教育をみんなに	5 ジェンダー平等を実現しよう	6 清潔な水とトイレを世界中に	7 再生可能エネルギーを普及させよう	8 豊かになり、働きがいをもたせよう	9 産業とイノベーションに力をいれよう	10 人や国を豊かにしよう	11 住み続けられるまちづくりを	12 持続可能な消費を推進しよう	13 気候変動に具体的な対策を	14 海の豊かさを守ろう	15 陸の豊かさも守ろう	16 公正で平和な社会を築こう	17 パートナーシップで目標を達成しよう
	P. 32 P. 33	P. 29 P. 33 P. 34	P. 29 P. 30 P. 33	P. 40 P. 41	P. 29 P. 30 P. 31 P. 32 P. 33	P. 34	P. 30 P. 33 P. 34	P. 34	P. 30 P. 33	P. 43	P. 39 P. 40 P. 41 P. 42	P. 42				P. 33

特集 サステナビリティ委員会

ソフトバンクグループ(株)のサステナビリティ委員会は2020年6月に発足し、四半期に1回程度の頻度で開催しています。サステナビリティ委員会にはサステナビリティに関係する部門の責任者も臨席し、専門的な知見や複合的な視点を踏まえた部門横断的な議論を行っています。

2021年度は、2021年10月、同年12月、2022年3月の合計3回開催し、当社グループの重要な課題である気候変動や人権リスクへの対応、経営理念・戦略を踏まえた価値創造ストーリーなどについて議論しました。

■ サステナビリティ委員長および委員のメッセージ

サステナビリティ委員長

チーフ・サステナビリティ・オフィサー (CSusO)



財務統括 IR部長 兼
管理統括 サステナビリティ部長
上利 陽太郎

CSusO 就任にあたって

2022年6月よりCSusOに就任し、サステナビリティ委員長を務めることになりました。これまでIR部長として積極的にサステナビリティの推進に関わってきましたが、今回からサステナビリティ部とIR部を兼務することとなり、一層のオーナーシップを持って取り組んでいきます。

まず、投資家をはじめとするさまざまなステークホルダーの皆さまへの情報発信をさらに強化したいと考えています。ソフトバンクグループ(株)は「情報革命の資本家」として、AIによるイノベーションに投資を続け、その成長をサポートし、ビジョンの実現を目指していますが、この企業活動・ビジネスモデルそのものが、社会的価値を創出し、グローバルリスクへのソリューションを提供することにつながっています。このことをしっかりと理解していただけるよう情報発信していきます。

また、ステークホルダーの皆さまの期待感をよく理解し、それを施策に生かしていきます。特にソフトバンクグループ(株)は事業活動そのものも、ステークホルダーもグローバルなので、サステナビリティの課題についても、グローバルにおける最前線でソリューションを生み出し続けていきたいと考えています。

サステナビリティ委員会は、その中で非常に重要な役割を担っています。掲げたビジョンに向けたロードマップを作り、日々の推進活動と結び付けていくことが肝要です。またソフトバンクグループ(株)は投資会社として、さまざまな事業に従事する子会社、投資先が「群」としてサステナビリティに取り組んでいるので、方針や施策をグループ全体で共有、浸透させていくこともとても大切です。

サステナビリティ委員



取締役 専務執行役員
CFO 兼 CISO
財務統括 兼 管理統括
後藤 芳光

委員会での活発な議論が会社全体の意識を醸成

サステナビリティ委員会は発足して2年ほどですが、グループポリシーの整備や気候変動・人権リスクへの対応など、さまざまなトピックについて議論を重ね、当社グループのサステナビリティ推進における重要な役割を担ってきました。加えて、社内関係部門の責任者が一堂に会して活発な意見交換を行うことで、マネジメント層の意識が高まり、それがさらに各部門のメンバーにも波及し、会社全体のサステナビリティ意識の醸成にもつながってきていると感じています。



常務執行役員 経理統括
君和田 和子

非財務情報開示の拡充を目指して

経理統括として、財務情報のみならず、非財務情報開示の重要性の高まりを感じています。定量値の開示は非常にチャレンジングなミッションですが、国際的な非財務情報開示フレームワークの潮流を見定め、投資家やステークホルダーの皆さまに分かりやすく、納得感のある開示を目指していきたいと考えています。また、戦略的投資持株会社として、投資先も含めた情報開示の重要性を認識しており、各ファンドの投資先のモニタリングやエンゲージメント強化の取り組みなどを進めていきたいと考えています。



執行役員 CLO 兼 GCO
法務統括
ティム・マキ

Integrityのある本質的なサステナビリティの取り組みを

グループ・コンプライアンス・オフィサーとして、倫理観やintegrity(誠実さ)を含む社員のコンプライアンス意識の醸成を重視しており、それは自ずとサステナビリティの意識の醸成にもつながっていくと考えています。当社グループは「情報革命で人々を幸せに」という経営理念の下、自社の利益だけでなく、社会全体の成長や発展に貢献することを目指しています。グループ全体で一度この理念の理解浸透を図り、形だけのサステナビリティではなく、「人々の幸せ」につながる本質的なサステナビリティの取り組みをさらに進化させていきます。

開催実績 全5回(2020年度:2回/2021年度:3回)

これまでの
主な議論

- 投資プロセスへのESG要素の組み込み
- ESG情報開示の強化
- ESG関連グループポリシーの整備
- 気候変動への対応方針
- 人権リスクへの対応方針

※ 2022年3月末現在

投資事業における ESG 対応の推進

当社グループは、投資事業における中長期的なリターンの向上とリスクの軽減を目指し、投資先の ESG の取り組みに対する体系的な評価プロセスの構築を進めるとともに、投資先に対し、ESG の視点を組み込んだ経営が可能となるよう情報提供や働きかけを行っています。

■ 投資プロセスへの ESG 統合

当社グループは、投資先に対して ESG の取り組みを促すことが、社会全体の持続的発展と当社グループの持続的成長に寄与すると考えています。この考えの下、投資プロセスで考慮すべき投資先のガバナンスに関する基準を定めた「ポートフォリオ会社のガバナンス・投資指針に関するポリシー」を 2021 年 5 月に改正し、投資先選定や投資後のモニタリングにおいて、ガバナンスに加えて環境・社会要素の評価を行うことを明記しました。このポリシーは、ソフトバンクグループ(株)とその子会社*1に適用されています。

投資先の環境・社会要素の評価については、各投資子会社が、重視すべき環境・社会課題やその具体的な評価方法を含む運用計画を策定することとしています。すでに一部の投資子会社においては、デュー・デリジェンスにおいて投資先候補の環境・社会に関する取り組み状況の評価を実施するとともに、評価結果の投資判断への活用と、投資後のモニタリングに向けた検討を進めています。

■ 投資先の事業を通じた環境・社会への貢献

当社グループは、「情報革命の資本家」として革新的なテクノロジーやビジネスモデルを持つ企業への投資を通じて、気候変動や教育格差、経済格差などのグローバルな課題の解決や地球規模でのサステナビリティの実現に貢献していけると考えています。すでに、ソフトバンク・ビジョン・ファンド事業をはじめとする投資事業を通じ、AI を活用して環境・社会課題の解決に貢献する企業に数多く投資しています。環境・社会課題の解決に貢献する投資先については、13 ページ、33 ページ、41 ~ 43 ページをご覧ください。

▶ P. 13 ▶ P. 33 ▶ P. 41~43

■ 投資先エンゲージメント

サステナビリティ・ワークショップの実施

SBIA

SBIA は、投資先エンゲージメントの一環として、投資先企業を対象としたサステナビリティに関するワークショップを実施しています。2021 年度末までに計 4 回のワークショップを実施し、合計 60 以上の企業・団体が参加しました。ワークショップでは、米国の気候変動政策の動向や、脱炭素イニシアチブの動向、企業における ESG 対応の重要性など、投資先がサステナビリティに関連するビジネス上のリスク・機会を理解し、対応を行うために有益な情報を提供しています。また、投資先の経営陣をパネリストとしたディスカッションを実施するなど、投資先間の連携の場としても機能しています。

サステナブルボンドを活用した環境・社会分野への投資促進

当社グループは、サステナブルボンドの発行によって調達した資金を活用し、環境・社会課題の解決に資する事業を促進しています。

HAPS ボンドの発行

ソフトバンク(株)

ソフトバンク(株)は 2022 年 1 月、成層圏通信プラットフォーム(HAPS: High Altitude Platform Station)事業に関わる設備投資や研究開発などに資金を充当するため、総額 300 億円のサステナビリティボンド(愛称「HAPS ボンド」)を発行しました。HAPS は、成層圏において航空機などの無人機体を通信基地局のように運用するシステムです。山岳部や離島、発展途上国など通信ネットワークが未整備の地域において、安定したインターネット接続環境の構築を可能にします。

グリーンボンドの発行

Zホールディングス(株)

Zホールディングス(株)は 2021 年 7 月、環境問題解決に貢献する事業の資金調達手段として、200 億円のグリーンボンドを発行しました。調達資金は、Zホールディングスグループが利用するエネルギー効率の高いデータセンターの建設・改修などへの投資と、データセンター運営に必要な再生可能エネルギーの調達に活用されます。

*1 ソフトバンク・ビジョン・ファンドおよびソフトバンクグループ(株)の子会社が管理するその他の投資子会社を含みます。ただし、上場会社および規制上の理由から当社グループによる支配が禁止されている子会社ならびにその傘下の子会社は除きます

Pick up 環境・社会課題の解決に貢献する投資先

(投資先の情報は2022年9月末現在)

当社グループの投資先は、AIをはじめとするテクノロジーを駆使し、それぞれが自社の強みを活かして地球規模でのサステナビリティの実現に貢献しています。私たちは、「情報革命の資本家」として、より安全でより豊かな心躍る未来の実現を目指し、今後も投資先の事業を通じたグローバル課題の解決を目指します。

▶ P. 33 ▶ P. 41~43

The infographic features a central circular graphic with a green-to-orange gradient. Inside the circle, there are icons for a leaf, a stethoscope, a hand on a keyboard, and a bar chart. The word '環境' (Environment) is written in the green section, and '社会' (Social) is written in the orange section. Surrounding this central graphic are various company logos, each associated with a specific ESG theme:

- 環境 (Environment):** Zūm, OLA ELECTRIC, TIER, Flock Freight, Enpal, ENERGY VAULT, view, swell, Vestiaire Collective, SODA inc., Misfits Market, Plenty, zyme, zume, Fynd, XAG, Apollo Agriculture, Upside Foods, Arkose Labs, cybereason, OneTrust, CLAROTY, CORNAMI.
- 社会 (Social):** WorkBoard, netradyne, jobandtalent, nauto, Neumora, alto, biofourmis, Exscientia, TESSERA, DevotedHealth, unacademy.
- 健康・安心安全 (Health & Safety):** CAMBRIDGE MOBILE TELEMATICS, eley, deep genomics, insitro, papa, XtalPi, OPay, SUSU.
- 働きがい・生産性向上 (Work & Productivity):** CLARITY AI, Beisen.
- 資源循環 (Resource Circulation):** (No specific logos are explicitly linked to this theme in the image).
- 気候変動 (Climate Change):** (No specific logos are explicitly linked to this theme in the image).
- サイバーセキュリティ (Cybersecurity):** (No specific logos are explicitly linked to this theme in the image).
- 格差解消・アクセス改善 (Reduction of Inequality & Access Improvement):** (No specific logos are explicitly linked to this theme in the image).
- 生物多様性 (Biodiversity):** (No specific logos are explicitly linked to this theme in the image).

※上記は環境・社会課題の解決に貢献する投資先の一部です